

年報

2025 年度

筑波大学大学院 人間総合科学学術院

人間総合科学研究群 看護科学学位プログラム

目次

I . 看護科学学位プログラムの組織運営	1
1. 看護科学学位プログラムの目的、教育目標	1
2. 看護科学学位プログラムの沿革	3
3. 看護科学学位プログラムの組織	6
4. 看護科学学位プログラムの施設・設備	13
II . 教育活動	14
1. 教育内容及び方法	14
2. 自発的な教育活動	14
3. 教育の成果と教育の質の向上及び改善のためのシステム	14
4. 大学院教務・看護科学事務の支援体制	18
III . 研究活動	20
1. 教員・学生の個人業績	20
1. 学生数の状況	41
2. 大学院生支援委員会の活動	41
3. 今後の課題	43
V . 社会貢献と国際交流	44

I. 看護科学学位プログラムの組織運営

1. 看護科学学位プログラムの目的、教育目標

1) 看護科学学位プログラム博士前期課程および博士後期課程の理念と目的

看護科学学位プログラム博士前期課程では、学際的および国際的な視点に基づき、看護を科学的に探究する人材を育成することを目的とします。博士前期課程では、科学的根拠に基づいて看護の指導的役割を担う教育者・研究者を目指す学生、ならびに看護の実践能力と高度な専門性を有する高度専門職業人を目指す学生を求めています。

看護科学学位プログラム博士後期課程では、看護学の高度専門職者・管理者、教育者、政策・行政分野における看護・医療の専門家として、専門的知識・技術を有するにとどまらず、常に研究マインドを持って看護実践を検証できる能力を育成します。さらに、看護の専門領域にとどまらず、「学際性」と「科学性」に基づき、新たな看護技術や教育・研究方法を開発できる能力を養成します。博士前期課程で培った看護実践能力および研究能力を基盤として、次代に必要とされる新たな知識の創造と技術開発を担う基礎研究者として、教育・研究方法を体系化できる力を備えた教育者・研究者、あるいは、看護科学の基礎的能力を修め、実践と理論の架け橋となる高度専門看護職者・管理者・行政官を目指す者を求めています。

2) 看護科学学位プログラム博士前期課程の特色と教育目標

看護科学学位プログラム博士前期課程では、教育目的を達成するため、修了後の進路に対応した以下のプログラムを設置します。

- ① 博士後期課程への進学に向けて研究基礎力を育成する看護科学プログラム
- ② 高度な教育・実践能力を有する助産師を育成する助産学プログラム

博士後期課程への進学に向けて研究基礎力を育成する看護科学プログラムでは、筑波大学大学院学則に規定された課程の目的を踏まえ、看護科学の領域において社会的・学術的意義が高く、看護科学の発展に寄与する研究を実践できる

よう、以下の能力を育成します。

- ① 科学的根拠に基づいて看護を探究し、実践する能力
- ② 看護科学の基盤となる専門知識と技術をもって看護を実践・教育する能力
- ③ 看護を学際的な視点から科学的に分析する能力
- ④ 豊かな感性と確かな倫理観に基づく看護の実践能力
- ⑤ 国際的な看護実践を志向する能力
- ⑥ 国際水準の看護研究の成果を自らの実践に活かす能力

高度な教育・実践能力を有する助産師を育成する助産学プログラムでは、筑波大学大学院学則に規定された課程の目的を踏まえ、助産学分野における高度専門職業人として十分な教育・実践能力を身に付けられるよう、以下の能力を育成します。

- ① 科学的根拠に基づいて助産を探究し、実践する能力
- ② 看護科学の基盤となる専門知識と技術をもって助産を研究・実践する能力
- ③ 助産を学際的な視点から科学的に分析する能力
- ④ 豊かな感性と確かな倫理観に基づく助産の実践能力
- ⑤ 国際的な助産実践を志向する能力
- ⑥ 国際水準の助産研究の成果を自らの実践に活かす能力

3) 看護科学学位プログラム博士後期課程の特色と教育目標

看護科学学位プログラム博士後期課程では、教育目的を達成するため、筑波大学大学院学則に規定された課程の目的を踏まえ、看護科学の領域において博士の学位にふさわしい新規性・独創性と十分な学術的価値を有する学位論文を提出できるよう、以下の能力を育成します。

- ① 看護実践の基盤となる科学的根拠を創出する研究能力
- ② 看護に関する高度な知識と技術力
- ③ 高度専門職者としての実践知に基づく教育・研究能力
- ④ 確かな倫理観と価値基準に裏付けられた研究能力

⑤ 国際水準の研究能力

2. 看護科学学位プログラムの沿革

1) 博士前期課程の沿革

平成 15 年度に筑波大学は、看護短期大学から看護・医療科学類として 4 年制大学になりました。平成 18 年度に看護・医療科学類が完成年度を迎えるにあたり、大学院進学を希望する学生の受け皿となり、専門性を高める看護の大学院として、また茨城県内の看護系大学生および看護師からの強いニーズに応えるため、平成 19 年 4 月に人間総合科学研究科に設置されました。

社会的なニーズに応えるために「人間の生物身体的・教育福祉的・精神文化的の 3 側面を視野に入れながら人間に関わる総合科学の確立を目標」としている筑波大学大学院人間総合科学研究科があります。その一専攻として設置された看護科学専攻は、従来の看護学が追求してきた「科学性」のみならず、看護学と他の融合可能な学問領域との学際融合を図り「人間の総合性」を「次代を担うエビデンスの思考に立つ新たな科学」の視点に立つ「専門性」を取り入れ、「実践看護学領域」「地域健康システム看護学領域」「環境看護学領域」の 3 領域で教育が始まりました。

看護においては人々の QOL の向上を目指した、より専門的な知識と高度な看護技術、科学的根拠に基づいた的確な判断力を有した高度専門職業人の育成が求められ、平成 22 年度から専門看護師教育課程に関する科目の開講を始めました。平成 23 年度には「がん看護」「精神看護」、平成 24 年度には「慢性看護」が、専門看護師教育課程として日本看護系大学協議会より認可を受けました。専門看護師教育においては、積極的に e-learning を導入し、対面講義・演習との組み合わせにより、教育内容の拡充に努めてまいりました。また、平成 23 年度に専門看護師教育課程以外の科目についてのカリキュラム改正を行い、設置時の「実践看護科学領域」「地域健康システム看護学領域」「環境看護学領域」の 3 領域から、「実践看護学領域」「地域環境システム看護学領域」の 2 領域に再編しました。平

成 26 年度より高度実践看護教育のさらなる充実を図り、「家族看護」の専門看護師教育課程を追加し、日本看護系大学協議会より「がん看護」「精神看護」「慢性看護」「家族看護」の 4 分野において専門看護師教育課程(38 単位)の認定を受けました。また同年より、学生の研究力と教育力を強化することを目指し、助産師教育課程を学士教育から大学院教育に移行し(文部科学省認定)助産師養成教育を提供しています。

平成 29 年度には、前期課程内に、修了後の進路に対応したプログラム:①博士後期課程への進学に向けて研究基礎力を育成する看護科学プログラム、②専門看護師としての臨床実践能力を育成する高度実践看護プログラム、③高度な教育・実践能力を持つ助産師を育成する助産学プログラムを設定し、運営を開始しています。令和元年度から 1 科目あたりの受講者数を増やし、学習の充実を図るため「実践看護学領域」「地域環境システム看護学領域」の 2 領域をなくし、看護科学として 1 つの専門領域にしました。

人間総合科学学術院 人間総合科学研究群 看護科学学位プログラムへの改変

令和 2 年度に筑波大学では大学院改革が行われ、8 研究科、85 専攻であった大学院は、3 学術院、6 研究群、56 学位プログラムより成る大学院に改変されました。人間総合科学研究科 看護科学専攻は、人間総合科学学術院 人間総合科学研究群 看護科学学位プログラムとなりました。再編の目的は、各研究群では専任の教員を中心とした幅広い学問分野の教員が協働して学位プログラムの授業と研究指導を行うことにあります。また、学位授与時に学生が備えるべき知識・能力(コンピテンス)を、全学で共通の汎用カコンピテンスと、各学位プログラムに特有の専門カコンピテンスの双方から明確化し、その修得に向けた教育課程を編成しました。学生の達成度評価にあたっては、学会発表や論文作成、TA の経験やボランティア活動を含め、授業以外の活動も積極的に評価します。また学生が修了するまでに汎用カコンピテンスと専門カコンピテンスを修得できるよう、きめ細かな学修支援を行うことになりました。令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、春学期は教育活動が制限されましたが、秋学期からは対面、オンラインを含めたハイブリッド

の授業を行い充実させることができました。

看護科学専攻は、令和2年度までに博士前期課程188名の学生を修了させました。看護科学専攻は、令和4年度に修了生1名を輩出することにより、教育課程16年間の幕を閉じました。看護科学学位プログラムとなった令和3年度から令和7年度までに、58名の学生が修了しました。またこれまでに21名の修了生が専門看護師試験に合格しています。しかしながら、諸般の事情により専門看護師養成課程の募集を令和6年度より終了することとなりました。現在、令和9年度からの診療看護師養成課程の開設をめざして準備しています。

看護科学専攻ならびに看護科学学位プログラム博士前期課程修了生は、保健師、助産師、看護師、養護教諭あるいは大学教員として活躍しています。

2) 博士後期課程の沿革

国際的レベルの教育・研究の拠点となることを目的として、平成13年に「人間総合科学研究科」が開設され、この人間総合科学研究科に平成19年4月に看護科学専攻博士前期課程が、前期課程の開設に引き続き、平成21年4月に看護科学専攻博士後期課程が誕生しました。平成26年度からは、文部科学省「未来医療研究人材養成拠点形成事業」の中で地域基盤型高度実践看護師コースを開講し、博士後期課程における高度実践看護師の育成を開始しました。

令和2年度に行われた筑波大学大学院改革により、博士後期課程においても令和2年度より看護科学学位プログラムの入学生の受け入れを開始しました。

看護科学専攻は平成25年度3月に初めて修了生が誕生し、博士(看護科学)が授与されました。以降、博士(看護科学)の授与は、2名の論文博士を含め、令和7年度までに看護科学専攻から50名、看護科学学位プログラムから9名、計59名となりました。看護科学専攻は、令和7年度に最後の学生が退学したことをもって、17年間の幕を閉じました。

看護科学専攻ならびに看護科学学位プログラム博士後期課程の修了生は厚生労働省をはじめ日本のさまざまな保健医療分野で将来有望なリーダーとして活躍しています。

3. 看護科学学位プログラムの組織

1) 教務委員会

履修関連

1. 科目一覧の管理、次年度科目一覧作成依頼
2. 時間割作成
3. シラバスの管理、次年度シラバスの作成依頼
4. 大学院便覧・大学院スタンダードの確認
5. 既修得単位認定(なし)・学籍管理(指導教員変更、研究生等)
6. 次年度 学群生、科目等履修生一覧の管理
7. 修了認定(前期・後期)用資料の作成
8. 協力教員、非常勤講師、ゲストスピーカーに係る調整
9. 在校生オリエンテーションの企画・実施
10. 実習科目の進捗状況とINFOSS 受講状況の確認・管理
11. その他、履修関連事項の検討(達成度基準の見直し、留学生対応、等)

審査関連

1. 研究計画書(前期・後期)審査委員会案の作成
2. 予備審査委員会(前期・後期)案の作成
3. 論文審査委員会(前期・後期)案の作成
4. 研究計画書(前期・後期)審査会・発表会の実施
5. 修士論文発表会(前期)の運営
6. 研究計画書(前期・後期)審査報告書の確認
7. 予備審査報告書(前期・後期)の確認
8. 論文審査報告書(前期・後期)の確認
9. 審査スケジュール(前期・後期)案の作成
10. その他、審査関連事項の検討(オンライン対応、等)

2) 入試委員会

令和7年度の入試委員会の活動は、博士前期課程、博士後期課程の入学試験の実施とそれに伴う各種業務を遂行した。本学位プログラムの入試実施体制のなかで、出題ミス予防に向けた基準等を遵守し、適正かつ公正である入学試験となるよう入学試験を実施した。

令和8年度入試も、感染拡大防止に留意しながら実施した。

< 令和8年度入学試験の実施状況 >

令和7年度入学試験は、8月期と2月期に本試験を実施した。

● 博士前期課程

8月期入試 筆記試験 令和7年8月21日、口述試験 8月22日

			志願者数	受験者数	合格者数	外国人留学生内合格者数
募集人員 (15名)	8月期入試	一般	21	21	16	0
		社会人	1	1	0	0
	2月期入試	一般	0	0	0	0
		社会人	0	0	0	0

● 博士後期課程

8月期入試 筆記試験 令和7年8月21日、口述試験 8月21日

2月期入試 筆記試験、口述試験 令和8年1月28日

		志願者数	受験者数	合格者数	外国人留学生内合格者数
募集人員 (8名)	8月期入試	10	10	7	0
	2月期入試	1	1	0	0

< その他の活動 >

留学を希望する外国人には、オンラインに於いて積極的に事前面接を実施した。

< 次年度に向けた課題 >

博士前期課程・博士後期課程ともに、受験者数の増加を重要な課題としてい

る。今後は、ポスター、パンフレット、Web ページ等を活用した積極的な広報活動を行い、看護科学学位プログラムのアドミッション・ポリシーに合致した志願者の確保を目指す。

本学の看護学類では、学類から博士前期課程への円滑な接続を目指し、6 年一貫教育を推進している。2 年次には「看護学探究概説」を配置し、希望者が早期から研究室(ゼミ)に参加できる体制を整えている。また、4 年次の「看護学探究演習」では研究グループ単位での指導体制を構築し、大学院進学を見据えた研究的基礎力の育成を図っている。

こうした教育体制を背景に、令和 9 年度入試からは 7 月に新たな推薦入試を実施することとなった。あわせて、これまで実施してきた筆記試験を廃止し、英語については外部試験を活用した評価方法を導入する。これにより、受験時期が早まり、学生が早期に進路を決定できるようになることから、計画的な大学院進学準備が促進され、学類段階から大学院進学を主体的に検討する機会の拡大が期待される。

博士前期課程においては、こうした入試制度の変更と学類教育との連続性を生かし、本学看護学類からの進学者のさらなる増加を目指す。また推薦入試の受験資格は本学の学類生に限定していないため、学外からの受験者を獲得できるように広報活動を促進する。

一方、博士後期課程では、研究者・教育者および高度看護実践者の育成を目的として、本学博士前期課程修了生からの継続的な進学を推奨するとともに、社会人や他大学修了者も視野に入れた広報活動の在り方について検討を進めていく必要がある。

3) 広報・情報委員会

■今年度の活動目標

看護科学学位プログラムの入試について、ポスター、パンフレット、Web ページを通じて広報を展開する。

看護科学学位プログラム関係者(授業担当教員および学生)の Web ページを

通じての情報活用を支援する。

■活動状況

<看護科学学位プログラムホームページの更新>

ホームページ(HP)日本語版および英語版の一部内容を修正し、外部者用・内部者用にそれぞれ内容を精査し、更新した。行事関連写真の追加、ニュースの提供など、迅速な更新に注力した。

<入試説明会の開催>

令和8年度看護科学学位プログラム入試説明会を令和6年6月13日に開催した。参加者総数は88名であり、内訳は一般参加者(他大学を含む)17名、看護学類3年生71名であった。説明内容は、カリキュラムおよび入試に関する説明、助産師養成課程の説明、在校生からのメッセージ(博士前期課程、助産師養成課程、博士後期課程)、国際交流・協定校の紹介、各研究室の紹介であった。

さらに、英語外部試験の導入に伴い、令和9年度看護科学学位プログラム入試説明会を令和7年2月19日にオンラインで開催した。参加者は一般20名、看護学類生70名であった。

■目標の達成度、次年度に向けた課題

次年度以降もオンサイトでの入試説明会を実施する予定である。例年、「在校生メッセージ」は好評なので、企画内容は継続していく。また、大学院修了後の進路の紹介や、研究領域紹介の時間を増やすなど、より本学学位プログラムの特色を鮮明に打ち出していく必要性も考えられる。さらに、今後の看護学類からの進学希望者の確保に向けては、指導教員の顔が見える形での直接的な情報発信・働きかけを各教員が継続的に行うことが有効であると考えられる。

■目標の達成度、次年度に向けた課題

学外への効果的な情報発信を行うため、引き続きホームページの充実を図る。同時に、看護学類の卒業生を安定的に確保するため、各教員が学類生への働きかけおよび広報活動を強化していく。さらに、他大学大学院の動向を踏まえ、より早い時期での大学院説明会の開催についても検討する必要がある。

入試に関しては、次年度も事前予告情報を早期に発信していく。在学生の確保は重要性が高いことから、在学生向けメーリングリスト等を活用し、定期的な情報提供および働きかけを行っていく。

4)FD・自己点検評価委員会

本学位プログラムにおけるFD活動は、先駆的な看護研究及び教育を行なっている海外との学術協定校等との交流を通して、教員の教育力の向上と先進の取り組みを学ぶことにある。また、近年の組織構成員の再編成に伴い、教育・研究活動のリンケージ及び優れた研究成果の発信、より発展的な組織運営が喫緊の課題であると考えられる。

令和7年度は、看護学類および看護科学学位プログラムの教員が卓越した国際共同研究を行っていくために、2回シリーズのFD活動を行った。

第1回目FDは、【国際的な看護活動が地域社会や教育・研究に与えるソーシャルインパクト】というタイトルで、伊藤智子(医学医療系・准教授)、落合亮太(医学医療系・教授)、菅谷智一(医学医療系・准教授)を講師として、インド・ガーナ・台湾における国際交流や教育・研究実践の経験をもとに、国際的な看護活動が地域社会や教育・研究に与えるソーシャルインパクトについての講演とディスカッションを行った。参加者20名は、国際交流が看護学教育や研究の発展に果たす役割について理解を深め、自身の教育・研究活動への応用可能性を検討する機会となった。経験した円滑なコミュニケーションの実例紹介やタイムライン設定のコツを踏まえ、学際的な共同研究の経験について講師の先生方が知見を共有した。第2回目FDは、【EMI (English as Medium Instruction) in Medical Education in Taiwan】というタイトルで、Department of Nursing, College of Medicine, National Cheng Kung University(台湾国立成功大学)のDistinguished Professor, Dept of Nursing & Public Health, Vice Dean であられるProf. Nai-Ying Ko教授(PhD, RN, FAAN)を講師として、台湾の大学において看護学および公衆衛生分野で国際的に活躍する研究者を養成するための主に台湾における看護教育の最新動向や国際連携の実践について講演とディスカ

ッションを行った。質疑応答を通じて、教育方法の工夫や国際共同研究の可能性について活発な意見交換が行われ、参加者（教員、大学院生、学類生、病院関係者 計 24 名）の FD 意識の向上につながった。第 1 回目・第 2 回目ともに、参加教員の満足度は高く、自由回答でも参加意義があったことが確認された。

今後も、より一層の組織構成員メンバーの結束の強化や、組織としてのビジョンとミッションの定着を狙った FD 企画を開催していく。同時に、参加人数が全員に近い数になるよう、周知を徹底し、企画内容によっては、大学院生も巻き込んで、参加を促進するようにしたいと考えている。

授業評価に関しては、全学共通の TWINS を用いたオンラインで全科目において実施し、学生からの評価を教員にフィードバックしている。今年度も全科目でフィードバックを行った。また学生からの評価を元に、カリキュラムや授業内容の検討を行い、いくつかの科目内容の改善や開講時期変更に向けての検討も実施した。

COVID-19 による渡航制限等の解除も進む中、積極的に海外の提携大学ともつながりを深めていくとともに、教員の教育力の向上につながるような FD 活動の企画運営を進めていく。

5) ICT・国際活動委員会

2025 年度はそれまで培ってきた国際交流の基盤が、本格的に稼働し始めた年であった。

2023 年度より始まったガーナとの交流は教育・研究領域において継続しており、2025 年度の JST・さくらサイエンスプログラム(科学技術体験コース(A コース))に交流プログラム「ポスト・コロナ時代の感染症対策」が採択された。このプログラムでは、ガーナ共和国のガーナ大学、クワメ・エンクルマ科学技術大学、テパ看護助産師専門学校から、大学院生および学部生 7 名、引率教員 1 名の計 8 名を招聘し、計 7 日間のプログラムを実施した。プログラム 5 日目には、招聘者 8 名と本学看護学類 2 年生 64 名（ヘルスケアコース学生を含む）が参加するグループワークを実施した。グループワークでは、日本およびガーナにおける感染症対策の現状と課題、ならびにそれらに対する解決策について意見交換およびディスカッ

ションを行い、両国の医療・保健システムの違いや共通点について理解を深めるなど学生レベルでの貴重な学術的交流の場を得ることができた。また、プログラム中には筑波大学附属病院、筑波メディカルセンター、国立健康危機管理研究機構、成田検疫所を訪問・見学し、日本における感染症対策の具体的な取り組みや、医療・福祉現場における実践について学修した。これにより、制度的枠組みと現場実践の双方から感染症対策を理解する機会となった。

また、国立台湾大学の看護学部と共同で申請した Enhancing Nursing Competencies Through Data-Driven Public Health Analysis: A Bilateral Summer Program Between Japan and Taiwan (ENCOMPASS)が NTU -UGA-UT 3 大学国際協力センター 研究・教育共同イニシアティブに採択され、台湾、日本の双方において学生間交流と学術的プログラムを遂行した。このサマープログラムは、筑波大学と国立台湾大学の共同プロジェクトであり、看護学生の統計分析を用いた公衆衛生研究能力の向上を目指す。本プログラムは、両国の保健課題と政策課題を検証するために、公的なオープンデータを活用し、分析結果に基づく解決策の導出を行う。学際的な連携を通して、学生は問題解決能力、データリテラシー、そして政策志向の思考力を養い、現実の医療課題に取り組むことが期待され、8月3日～8日にNTU、8月17日～22日に筑波大学で開催された。国立台湾大学においては、双方の大学教員による講義を受けた後、学生が公的統計を活用して課題の実態把握に取り組んだ。その過程を通じて、学生は単なる概括的な課題認識にとどまらず、各自が独自の視点からより詳細で具体的な研究テーマを設定することができた点が大きな成果である。これにより、課題を抽象的に理解する段階から、実証的データに基づき分析可能な課題へと深化させる能力が養われた。一方で、課題としては、短期間で多様な統計資料を収集・分析する必要があったため、データ選定の妥当性や分析手法の限界について十分に検討しきれなかった点が挙げられる。また、学生間でテーマ設定の焦点が多岐にわたり、成果を横断的に比較・統合することが難しかった。今後は、事前の準備段階で共通の分析枠組みやテーマの整理を行うことで、学際的かつ協働的な成果をより一層引き出すことが期待される。

4. 看護科学学位プログラムの施設・設備

1) 施設設備委員会

施設・設備委員会は、共同利用棟 B および健康医科学イノベーション棟を中心とした研究教育環境の充実と管理運営、会議室やセミナー室など専攻に関わる諸室の調整と有効活用を目標として活動している。

■本年度の施設・設備の整備状況

看護科学学位プログラム大学院生および教員に関連する医学医療系の取り組みとして以下のものがあげられる。

1. 研究室について、使用状況、院生数等を考慮した調整を心掛けた。
2. 大学院講義室の電子黒板、音響設備、および座席を新調した。

■今後の課題

1. セミナー室など予約スペースの適正な利用を促進し、看護科学学位プログラムの教育・研究環境が安全に保ち充実するよう努める。

Ⅱ. 教育活動

1. 教育内容及び方法

令和3年4月より、改組前の看護科学専攻を母体とした「看護科学学位プログラム」を開設し、その教育理念のもとに編成したカリキュラムを実施している。学位については、当該専攻で授与していた「看護科学」を継承している。

本学位プログラム(博士前期課程)では、看護科学領域の課題に関する研究を行う研究者の養成を目指すとともに、高度専門職者養成課程として助産師養成課程を提供している。いずれの課程においても、科学的根拠に基づく探究力、専門領域における実践力、看護の学際性、看護における感性と倫理観、国際的に通用する実践力を修得させることにより、看護実践の基盤となる専門知識・技術・実践能力を備えた看護職者を養成している。学生の達成度は、修士論文、または特定課題研究(看護実践に活用可能なエビデンスの検討、あるいはエビデンスに基づく実践内容の評価について、研究として体系的にまとめた成果物)により最終評価している。

本学位プログラム(博士後期課程)では、学際的および国際的な視点に基づき、看護学の高度専門職者、教育者、研究者、ならびに政策・行政分野における看護・医療の専門家として、専門的知識・技術を有するにとどまらず、常に研究マインドを持って看護実践を検証できる人材を養成している。さらに、看護の専門領域にとどまらず、「学際性」と「科学性」に基づく新たな看護技術や教育・研究方法を開発できる人材の養成を目指している。

カリキュラムの詳細は、授業科目一覧と各科目のシラバスを参照

2. 自発的な教育活動

3. 教育の成果と教育の質の向上及び改善のためのシステム

<本年度の学位論文のテーマ>

看護科学学位プログラム博士後期課程

CHEN HONG

The Nature and Sex Differences in Dignity-Related Distress Among Patients with Advanced Cancer in Xinjiang, China

(中国新疆における進行がん患者の尊厳関連苦痛の特徴および性差)

佐々木 啓太

修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ(M-GTA)を用いた医療的ケア
児の家族が退院準備を整えるプロセスの解明

古田 敦子

重症度 2 から 4 の筋委縮性側索硬化症患者が語るアドバンス・ケア・プラン
ニングのプロセス: グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いた質的研究

野島 光希

新生児集中治療室に入院している児の母親用ストレス尺度の開発
—信頼性と妥当性の検討—

看護科学学位プログラム博士前期課程

葛西 茉莉聖

思春期に同胞の入院に伴い親と離れて生活をした体験
—青年期・成人期に至るまでの質的分析—

樺山 茜

訪問看護師の注射薬剤投与時の確認作業の実態と課題

川崎 公暉

看護研究者のコロナ禍における研究活動上の肯定的変化とストレス対処
力、精神的健康度の関連

小松 芽以

性成熟期女性における体幹の筋・持久力と月経随伴症状との関連

高橋 舞衣

産後女性における骨盤底筋群の動態指標と腰部・仙腸関節部・恥骨部の痛みとの関連

三林 里帆

統合失調症患者の病識と内面化されたスティグマによる類型化
—パーソナルリカバリーと自尊感情の群間比較—

湊谷 亮介

脳卒中患者における包括的摂食嚥下機能評価と嚥下機能単独評価の比較
による誤嚥性肺炎発症リスク予測精度に関する研究

愈 响玲

糖尿病患者における足部のセルフケアの実施状況

油布 桜子

妊娠に伴う腹部増大による足元の視界制限下における階段昇降時の視線行動の特徴

渡邊 鈴乃

ベビーモデルを用いた育児体験が大学生の子育ての社会化志向に与える影響

金 佳延

2型糖尿病患者の技術受容の認識とモバイルヘルス利用との関連

<FD 活動実績と今後の課題>

第1回 2025年4月11日(金)15:00~16:30

タイトル:【国際的な看護活動が地域社会や教育・研究に与えるソーシャルインパクト】

講師:伊藤智子(医学医療系・准教授)

落合亮太(医学医療系・教授)

菅谷智一(医学医療系・准教授)

概要:インド・ガーナ・台湾における国際交流や教育・研究実践の経験をもとに、国際的な看護活動が地域社会や教育・研究に与えるソーシャルインパクトについての講演とディスカッションを行った。

会場:Teams を用いた遠隔配信、その後のビデオ配信

参加者:看護科学学位プログラム教員、看護学類教員

主催:看護科学学位プログラム 共催:看護学類

第2回 2025年12月15日(水)14:00~16:00

タイトル:【EMI (English as Medium Instruction) in Medical Education in Taiwan】

講師:Prof. Nai-Ying Ko 教授(Department of Nursing, College of Medicine, National Cheng Kung University)

概要:台湾の大学において看護学および公衆衛生分野で国際的に活躍する研究者を養成するための主に台湾における看護教育の最新動向や国際連携の実践について講演とディスカッションを行った。

会場:医学4B棟209号室

参加者:看護科学学位プログラム教員、看護学類教員

主催:看護科学学位プログラム 共催:看護学類

(参考資料 各フライヤー)

2025年度看護学類/看護科学学位プログラム
吉田Faculty Developmentセミナー

ソーシャルインパクトにかかわる 海外交流

インド、ガーナ、台湾での実習のご経験から国際交流を通じて得られるソーシャルインパクトについて学びましょう

4.11 金
15:00-16:30

- ・ 日時: 2025年4月11日(金) 15:00-16:30
- ・ 場所: オンライン (TEAMS)
- ・ 右のQRコードよりご参加ください
- ・ 対象者: 看護学類教員、看護学類生、看護科学学位PI大学院生

講演者プロフィール

India



柴山大賀先生
医学医専系 教授
グローバルヘルス看護学

Ghana



落合亮太先生
医学医専系 教授
産業調整看護学

Taiwan



伊藤智子先生
医学医専系 准教授
がん看護学・ケアシステム

事前申し込みは不要です。お問い合わせ先: FD・自己点検委員長 清水理恵 riwaki@md.tsubaba.ac.jp

The 2nd Faculty Development Seminar
College of Nursing / Doctoral and Master's Program in Nursing Science

EMI (English as Medium Instruction) in Medical Education in Taiwan

12.15 Mon
14:00-16:00

Date: Monday, December 15, 2025 14:00-16:00

Venue: Room 209, Building 4B (In-person)

Target audience: Faculty members, researchers, and undergraduate and graduate students in Nursing Science

Speakers Profile



Prof. Nai-Ying Ko, PhD, RN, FAAN, Senior Fellow (HEA)

Distinguished Professor, Dept of Nursing & Public Health
Vice Dean, International Affairs,
College of Medicine
National Cheng Kung University, Taiwan



SCAN HERE

No prior application is required.
For inquiries, please contact: FD/Self-Inspection Committee Chairperson Rie Wakimizu. mail: riwaki@md.tsubaba.ac.jp

4. 大学院教務・看護科学事務の支援体制

看護科学専攻・学位プログラムでは、大学院教務ならびに看護科学事務から学生に対してさまざまな支援を受けている。主な支援内容を以下に示す。

< 大学院教務の学生に関する主な支援業務 >

1. 看護科学学位プログラムの入学試験
2. 学位記授与式、新入生オリエンテーション
3. 大学院生のTA関係業務
4. 外部資金申請関係(文科省等)
5. 学生の派遣・受け入れ関係
6. 非正規性受入れ関係(科目等履修生, 研究生)
7. 成績管理関係
8. 非常勤講師関係
9. 学籍異動関係
10. 授業料債権関係

11. 学外実習関係
12. 専修免許関係
13. 調査・統計関係

<看護科学事務の学生に関する主な業務>

1. 相談対応
2. 入学時オリエンテーション準備
3. 提出物等の受け取り
4. 郵便物の配布
5. 教室予約受付・管理(共同利用棟 B103・106・107・204・205・206・207)
6. ロッカーキーの貸出・管理
7. 印刷機、備品、消耗品(トナー・インク等)の管理
8. TA 任用に関する手続き・管理
9. 学外実習に関する手続き・管理
10. 一斉メールの配信：主に大学院教務,学生支援からの依頼による学生への配信
11. 各発表会、審査会サポート
12. 入試の準備・手伝い
13. 学位記授与式の準備・手伝い
14. 予算管理
15. 看護科学学位プログラム HP 管理補助

Ⅲ. 研究活動

1. 教員・学生の個人業績

※教員の個人業績については TRIOS 参照

<https://trios.tsukuba.ac.jp/ja>

A. 看護理工学・ウィメンズヘルス看護学・発達支援学(助産師養成)グループ

- 教授 岡山久代
- 准教授 青木真希子
- 准教授 松石雄二郎
- 助教 大川加奈

□看護科学学位プログラム 博士後期課程 3年 今野和穂

<論文>

- 1) 今野和穂, 岡山久代. (2025). 更年期にある女性が感じる主観的な心身の状態や変化：ナラティブレビュー. 更年期と加齢のヘルスケア, 24(2), 8-17.

<学会発表>

- 1) 今野和穂, 岡山久代. (2025). 閉経移行期症状のセルフアセスメントシート案1の表面妥当性および内容妥当性の検討とセルフアセスメントシート案2の作成. 第23回日本更年期と加齢のヘルスケア学会. 東京. 日本. 11月発表.

<競争的資金獲得状況>

- 1) 今野和穂. (分担者:岡山久代). 2023~2025年度, 基盤研究C. 閉経移行期症状のセルフアセスメントシートの作成と妥当性の検証.

<社会活動>

- 1) 東京都中央区健康チェック ママの健康チェック プレ更年期担当

<公的な委員会>

- 1) 更年期と加齢のヘルスケア学会代表幹事

<その他>

- 1) 第23回日本更年期と加齢のヘルスケア学会 学会奨励賞受賞
- 2) 今野和穂. (分担者:岡山久代). 2026~2028年度, 基盤研究C. 閉経移行期症状のセルフアセスメントシートの信頼性の検証. 採択

□看護科学学位プログラム 博士後期課程3年 壹岐聡恵

□看護科学学位プログラム 博士後期課程3年 白井淳美

□看護科学学位プログラム 博士後期課程3年 宇佐美絵理

□看護科学学位プログラム 博士後期課程3年 田邊里奈

<学会発表>

- 1) 田邊里奈, 宇佐美絵理, 小石川由起子, 野島光希, 和田秋花, 寺澤瑛利子, 青木真希子, 内藤紀代子, 二宮早苗, 岡山久代(2025). Effects of Electrical Muscle Stimulation Training of the Gluteus Maximus on Pelvic Floor Muscles in Healthy Women: A Pilot Study. LIFE2025. 神奈川. 日本

□看護科学学位プログラム 博士後期課程3年 野島光希

<論文>

- 1) Nojima, M., & Okayama, H. (2026). A qualitative study of stressors experienced by mothers of infants hospitalized in the neonatal intensive care unit. Japan Journal of Nursing Science, 23(2), e70040. <https://doi.org/10.1111/jjns.70040>
- 2) Nojima, M., & Okayama, H. (2026). Maternal stress in the neonatal intensive care unit: A concept analysis. Japan Journal of Nursing Science, 23(1), e70039. <https://doi.org/10.1111/jjns.70039>

<学会発表>

- 1) Mitsuki Nojima, Hisayo Okayama. (2026). Development of a Stressor Scale for Mothers of Infants Admitted to the Neonatal Intensive Care Unit–Verification of Content Validity–. 40th International Society of Gynecologic Endocrinology. Roma. Italy.
- 2) Mitsuki Nojima, Hisayo Okayama. (2025). Stressor felt by mothers in the Neonatal Intensive Care Unit. Tsukuba Conference 2025. Japan.
- 3) Mitsuki Nojima, Hisayo Okayama. (2025). Stressor felt by mothers in the Neonatal Intensive Care Unit: A qualitative Study. UTokyo Nursing International Conference 2025. Japan.
- 4) 野島光希, 岡山久代. (2025). 新生児集中治療室に入院している児の母親用ストレス尺度の開発—内容妥当性の検証—. 第 45 回日本看護科学学会学術集会. 新潟, 日本.
- 5) 田邊里奈.宇佐美絵理.小石川由起子.野島光希.和田秋花.寺澤瑛利子.青木真希子.内藤紀代子.二宮早苗.岡山久代(2025). Effects of Electrical Muscle Stimulation Training of the Gluteus Maximus on Pelvic Floor Muscles in Healthy Women : A Pilot Study.LIFE2025. 神奈川, 日本

<その他>

- 1) 次世代研究者挑戦的研究プログラム 採択
- 2) 山路ふみ子専門看護教育研究助成基金 獲得
- 3) 40th International Society of Gynecologic Endocrinology (ISGE) にて Full Congress Registration (FCR) Scholarship 獲得
- 4) 令和 7 年度人間総合科学学術院・研究科 TF 優秀賞 受賞

□看護科学学位プログラム 博士後期課程 2 年 小関秋花

<論文>

- 1) Shuka Koseki, Eriko Terasawa, Hisayo Okayama: Analysis of Fetal

Head Angle During Assisted Delivery Using a Delivery Assistance Simulator: Comparison Between Expert and Beginner Practitioners, Journal of Nursing Science and Engineering (in press)

- 2) Maya Grace Torii, Takahito Murakami, Shuka Koseki, Yoichi Ochiai: Suzume-chan: A Pet-as-a-Friend Plush Agent for Bedside Guidance and Nursing-Relevant Logging, Proceedings of the ACM/IEEE International Conference on Human-Robot Interaction (HRI), Interactivity Track (Demo), in press. (peer-reviewed)
- 3) Maya Grace Torii, Takahito Murakami, Shuka Koseki, Yoichi Ochiai: “ Suzume-chan: Your Personal Navigator as an Embodied Information Hub, ” Proceedings of the 33rd Workshop on Interactive Systems and Software (WISS 2025), Jozekei View Hotel, Hokkaido, Japan, December 2025, 3 pages, DOI:10.48550/arXiv.2512.09932

< 学会発表 >

- 1) Maya Grace Torii, Takahito Murakami, Shuka Koseki, Yoichi Ochiai, Suzume-chan: Your Personal Navigator as an Embodied Information Hub, Demonstration, WISS 2025 (Workshop on Interactive Systems and Software), Japan, 2025. (Peer-reviewed)
- 2) 小関秋花、岡山久代: 分娩介助シミュレータの3D スキャンモデルにおける形状整合性の検証. 第12回看護理工学学術集会、2025(ポスター発表)(査読あり)
- 3) 永田友実、小関秋花、村上貴人、鳥居万椰、落合陽一、岡山久代: 熟練者と初学者における分娩シミュレータを用いた会陰保護実施時の視線の特徴. 第12回看護理工学学術集会、2025(ポスター発表)(査読あり)
- 4) 谷中田小春、小関秋花、岡山久代: 超音波画像における膀胱底セグ

メンテーションのための U-Net モデルの構築と精度検証. 第 12 回看護理工学学会学術集会、2025(ポスター発表)(査読あり)

- 5) 田邊里奈, 宇佐美絵理, 小石川由起子, 野島光希, 和田秋花, 寺澤瑛利子, 青木真希子, 内藤紀代子, 二宮早苗, 岡山久代: Effects of Electrical Muscle Stimulation Training of the Gluteus Maximus on Pelvic Floor Muscles in Healthy Women: A Pilot Study, LIFE2025、2025(査読付プロシーディング)

<その他>

- 1) 山路ふみ子専門看護教育研究助成基金 獲得

□看護科学学位プログラム 博士後期課程1年 小石川由起子

<学会発表>

- 1) 田邊里奈, 宇佐美絵理, 小石川由起子, 和田秋花, 野島光希, 青木真希子, 内藤紀代子, 二宮早苗, 岡山久代. (2025). 電気刺激による大殿筋トレーニングが健康女性の骨盤底筋群に及ぼす影響(パイロットスタディによる検証). 第 24 回日本生活支援工学会大会・日本機械学会福祉工学シンポジウム 2025・第 40 回ライフサポート学会大会. 神奈川県, 日本.
- 2) 小石川由起子, 内藤紀代子, 岡山久代. (2025). 経腹的超音波画像診断法を用いた座位における骨盤底機能評価の可能性の検討. 第 13 回看護理工学会学術集会. 滋賀, 日本.
- 3) 小野加奈子, 小石川由起子, 渋谷えみ. (2025). 看護学生が臨地実習での体験から捉えた母性看護 ～ラウンドテーブルの試み～. 第 45 回日本看護科学学会学術集会. 新潟, 日本.

□看護科学学位プログラム 博士後期課程1年 三浦幸恵

<学会発表>

- 1) 田中幸恵, 岩田裕子, 岡山久代. (2025). ボンディング障害が疑われる褥婦への産科看護職者の支援の実態. 第 66 回日本母性衛生学会総

会・学術集会，東京，日本。

- 2) Tanaka Y, Iwata H, Okayama H. Postpartum Mental Health Screening and Practical Support for Mother-to-Infant Bonding Formation by Nursing Professionals in the First Two Weeks Postpartum. Gynecological Endocrinology: The 40th Anniversary Congress (ISGE). Rome, Italy, March 2026. Poster presentation.

<その他>

- 1) 次世代研究者挑戦的研究プログラム採択

□看護科学学位プログラム 博士前期課程 2年 小松芽以

<学会発表>

- 1) 小松芽以，岡山久代．(2025)．月経随伴症状に対する身体活動の効果に関する文献検討．第13回看護理工学会学術集会，滋賀，日本．
- 2) 高橋舞衣，渡邊鈴乃，小松芽以，油布桜子，大久保佳穂，南部睦美，前原歌，ムーア香乃子ジョセフィン，青木真希子，大川加奈，岡山久代．(2025)．すべてにおいて開かれた大学での6年間で助産師を目指す“筑波助産プログラム”の強みは？．第39回日本助産学会学術集会，千葉，日本．

□看護科学学位プログラム 博士前期課程 2年 高橋舞衣

<学会発表>

- 1) 高橋舞衣，渡邊鈴乃，小松芽以，油布桜子，大久保佳穂，南部睦美，前原歌，ムーア香乃子ジョセフィン，青木真希子，大川加奈，岡山久代．(2025)．すべてにおいて開かれた大学での6年間で助産師を目指す“筑波助産プログラム”の強みは？．第39回日本助産学会学術集会，千葉，日本．

□看護科学学位プログラム 博士前期課程 2年 油布桜子

<学会発表>

- 1) 油布桜子, 岡山久代. (2025). 階段昇降時における視線動作の特徴に関する文献検討. 第 13 回看護理工学会学術集会, 滋賀, 日本.
- 2) 高橋舞衣, 渡邊鈴乃, 小松芽以, 油布桜子, 大久保佳穂, 南部睦美, 前原歌, ムーア香乃子ジョセフィン, 青木真希子, 大川加奈, 岡山久代. (2025). すべてにおいて開かれた大学での 6 年間で助産師を目指す“筑波助産プログラム”の強みは?. 第 39 回日本助産学会学術集会, 千葉, 日本.

□看護科学学位プログラム 博士前期課程 2 年 渡邊鈴乃

<学会発表>

- 1) 高橋舞衣, 渡邊鈴乃, 小松芽以, 油布桜子, 大久保佳穂, 南部睦美, 前原歌, ムーア香乃子ジョセフィン, 青木真希子, 大川加奈, 岡山久代. (2025). すべてにおいて開かれた大学での 6 年間で助産師を目指す“筑波助産プログラム”の強みは?. 第 39 回日本助産学会学術集会, 千葉, 日本.

□看護科学学位プログラム 博士前期課程 1 年 大久保佳穂

<学会発表>

- 1) 高橋舞衣, 渡邊鈴乃, 小松芽以, 油布桜子, 大久保佳穂, 南部睦美, 前原歌, ムーア香乃子ジョセフィン, 青木真希子, 大川加奈, 岡山久代. (2025). すべてにおいて開かれた大学での 6 年間で助産師を目指す“筑波助産プログラム”の強みは?. 第 39 回日本助産学会学術集会, 千葉, 日本.

□看護科学学位プログラム 博士前期課程 1 年 南部睦美

<学会発表>

- 1) 高橋舞衣, 渡邊鈴乃, 小松芽以, 油布桜子, 大久保佳穂, 南部睦美, 前原歌, ムーア香乃子ジョセフィン, 青木真希子, 大川加奈, 岡山久代. (2025). すべてにおいて開かれた大学での 6 年間で助産師を目指す“筑

波助産プログラム”の強みは？. 第 39 回日本助産学会学術集会, 千葉,
日本.

□看護科学学位プログラム 博士前期課程 1年 前原歌

<学会発表>

- 1) 高橋舞衣, 渡邊鈴乃, 小松芽以, 油布桜子, 大久保佳穂, 南部睦美,
前原歌, ムーア香乃子ジョセフィン, 青木真希子, 大川加奈, 岡山久代.
(2025). すべてにおいて開かれた大学での 6 年間で助産師を目指す“筑
波助産プログラム”の強みは？. 第 39 回日本助産学会学術集会, 千葉,
日本.

□看護科学学位プログラム 博士前期課程 1年 ムーア香乃子

<学会発表>

- 1) 高橋舞衣, 渡邊鈴乃, 小松芽以, 油布桜子, 大久保佳穂, 南部睦美,
前原歌, ムーア香乃子ジョセフィン, 青木真希子, 大川加奈, 岡山久代.
(2025). すべてにおいて開かれた大学での 6 年間で助産師を目指す“筑
波助産プログラム”の強みは？. 第 39 回日本助産学会学術集会, 千葉,
日本.

B. がん看護・ケアシステムグループ

■教授 水野道代

■准教授 伊藤智子

□看護科学学位プログラム 博士後期課程 3年 阿部愛子

□看護科学学位プログラム 博士後期課程 3年 成尾美樹

□看護科学学位プログラム 博士後期課程 3年 Chen Hong

<論文>

- 1) Chen H, Mizuno M, Ito T.(2025) . Sex as a Predictor of Dignity-Related Distress Among Patients with Advanced Cancer. Palliative Medicine Reports. 2025;6(1):299-307.

□看護科学学位プログラム 博士後期課程 2年 呉嘉慧

C. 国際発達ケア・発達支援看護学研究グループ

■教授 安梅勅江

■准教授 涌水理恵

□看護科学学位プログラム 博士後期課程 3年 佐々木啓太

<論文>

- 1) 佐々木啓太, 葛西茉莉聖, 涌水理恵. (2025). 小児科病棟に入院し化学療法を受ける子どもの食事摂取の実態. 小児がん看護. 20(1), 51-61.
- 2) 浅野梨子, 佐々木啓太, 谷口育, 葛西茉莉聖, 川崎公暉, 涌水理恵. (2025). A 大学の保育所実習(小児ふれあい実習)前後での看護学生の対児感情の変化. 小児保健研究. 84(5), 1-20.
- 3) 越智向日葵, 佐々木啓太, 谷口育, 涌水理恵. (2025). 障害児通所支援事業所を利用する児を養育する家族における「主養育者の養育負担感」と「家族内のコミュニケーション」の関連性の確認および養育負担感に関連する要因の探索. 家族看護学研究. 30, 99-111.

<学会発表>

- 1) 川崎公暉, 佐々木啓太, 涌水理恵. (2025). 看護研究者のコロナ禍における教育・研究活動とストレス対処力、精神的健康度の関連-パス解析による検討-. 第45回日本看護科学学会学術集会. 2025-12-05.

- 2) 佐々木啓太, 葛西茉莉聖, 川崎公暉, 涌水理恵. (2025). 看護関係職種による医療的ケア児に関する研究のコンセプトとその年次推移. 日本家族看護学会第32回学術集会. 2025-09-21.
- 3) 松澤明美, 佐々木啓太. (2025). 在宅で生活する小児脳腫瘍の子ども/経験者とその家族への支援に関する介入: スコーピングレビュー. 日本小児看護学会第35回学術集会. 2025-07-05.

<執筆>

- 1) 佐々木啓太, 涌水理恵. (2025) 特集: 研究をとおして小児看護を解き明かそう, 研究をするための問いの4つの水準とさまざまな研究デザイン. 小児看護 2025年7月号, へるす出版, 800-804.

<競争的資金獲得状況>

- 1) 公益財団法人在宅医療助成 勇美記念財団「在宅医療推進のための研究」, 「医療的ケア児の家族が退院準備を整えるプロセスの解明」. 研究代表者: 佐々木啓太

□看護科学学位プログラム 博士前期課程2年 葛西茉莉聖

<論文>

- 1) 佐々木啓太, 葛西茉莉聖, 涌水理恵. (2025). 小児科病棟に入院し化学療法を受ける子どもの食事摂取の実態. 小児がん看護. 20(1), 51-61.
- 2) 浅野梨子, 佐々木啓太, 谷口育, 葛西茉莉聖, 川崎公暉, 涌水理恵. (2025). A大学の保育所実習(小児ふれあい実習)前後での看護学生の対児感情の変化. 小児保健研究. 84(5), 1-20.

<学会発表>

- 1) 佐々木啓太, 葛西茉莉聖, 川崎公暉, 涌水理恵. (2025). 看護関係職種による医療的ケア児に関する研究のコンセプトとその年次推移. 日本家族看護学会第32回学術集会. 2025-09-21.

- 2) Marise Kasai, Rie Wakimizu. (2025). Literature review of the experiences of adolescents whose siblings have been hospitalized ,Tsukuba Conference

□看護科学学位プログラム 博士前期課程 2年 川崎公暉

<学会発表>

- 1) 川崎公暉, 涌水理恵 (2025). 遠隔教育・医療・看護をはじめとする ICT の活用が日本人の生活や受診、学習、就業、育児等に及ぼす影響の国内文献レビュー. 第一回日本デジタル医学会 / 2025-10-18-2025-10-19
- 2) 川崎公暉, 涌水理恵 (2025). 看護研究者のコロナ禍における教育・研究活動とストレス対処力、精神的健康度の関連― パス解析による検討― . 第 45 回日本看護科学学会 / 2025-12-06-2025-12-07

D. 地域健康・公衆衛生看護学研究グループ

■准教授 白谷佳恵

■助教 井坂ゆかり

■助教 山下美智代

□看護科学学位プログラム 博士後期課程 3年 清水幹子(休学中)

□看護科学学位プログラム博士後期課程 3年 氏家寿美子(休学中)

□看護科学学位プログラム 博士前期課程 2年 小倉朋美

<学会発表>

- 1) 小倉朋美, 井坂ゆかり, 山下美智代, 白谷佳恵 (2025). 中学校養護教諭が認識する生徒の学校適応困難リスクと支援: 質的記述的研究.

第 15 回日本公衆衛生看護学会学術集会(石川)

□看護科学学位プログラム 博士前期課程 1 年 磯部舞由子

<学会発表>

- 1) 磯部舞由子,井坂ゆかり,山下美智代,白谷佳恵(2025). 運動強度の高いスポーツをする中高生の精神的健康に関する尺度開発に向けた検討:文献検討及びフィールドワーク計画. 第 15 回日本公衆衛生看護学会学術集会(石川)

<その他>

- 1) 2025 年度(株)ユピア オリーブの枝助成金 獲得

E. グローバルヘルス看護学グループ

■教授 柴山大賀

■准教授 菅谷智一

■助教 トゴバタラ・ガンチメゲ

■助教 工藤理恵

■助教 阿部吉樹

□看護科学専攻博士後期課程 3 年 金城一平

□看護科学学位プログラム博士後期課程 3 年 見延充美

<論文>

- 1) Atsumi Iikura, Haruka Tamura, Shohei Miyamoto, Daichi Sugawara. Mindfulness-based approaches in nursing: A comprehensive systematic review. Nurse and holistic care, 5(1), 99-120.

<学会発表>

- 1) Atsumi Iikura, Yumiko Saito. (2025). Differences in work engagement among novice nurses: A mixed methods study based on the Job Demands-Resources model. The 29th East Asian Forum of Nursing. Singapore. Oral
- 2) Yumiko Saito, Atsumi Iikura. (2025). Scoping review protocol on the practice of Advance Care Planning (ACP) in the NICU. The 45th Annual Conference of Japan Academy of Nursing Science. Niigata. Japan. Poster
- 3) Atsumi Iikura, Yumiko Saito. (2025). #WillNursesStay? Exploring retention strategies for Gen Z nurses through literature review. The 45th Annual Conference of Japan Academy of Nursing Science. Niigata. Japan. Poster
- 4) Atsumi Iikura, Yumiko Saito. (2025). Exploring work engagement in Japanese novice nurses: A convergent mixed methods analysis of ethnographic and scale-based data. The Mixed Methods International Research Association Asia Regional Conference, Tokyo, Japan. Poster
- 5) Yumiko Saito, Atsumi Iikura. (2025). Practice changes resulting from End-of-Life family support nursing educational program in NICUs: A mixed-methods approach. The Mixed Methods International Research Association Asia Regional Conference, Tokyo, Japan. Poster
- 6) 宮本翔平, 岩澤敦史, 丹治史也, 飯倉充美, 齋藤佑見子. (2025). 農村地域における離婚・経済的困難と自殺念慮の関連: 横断研究. 第49回日本自殺予防学会総会. 9月6日. ポスター発表
- 7) 齋藤佑見子, 飯倉充美. (2025). ファミリー・サポート・センター事業におけるフォローアップ研修の実践と評価—ARCSモデル

を活用して一、日本看護学教育学会第35回学術集会、8月29日、
ポスター発表

- 8) 前田隆子, 飯倉充美, 叶野智哉. (2025). 看護学部4年生を対象とした多重課題 OSCE の実施に向けた検討. 日本看護学教育学会第35回学術集会、8月29日、ポスター発表

<競争的資金>

- 1) 飯倉充美, 菅原大地, 齋藤佑見子, 川口孝泰. 2022~2026年度、日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究(C)、女性消防吏員の職務継続に関する基礎研究.
- 2) 飯倉充美. 202年度、日本看護科学学会 若手国際化研究助成、新人看護師のワーク・エンゲイジメントにおける差異 :Job-Demands Resources model を基盤とした混合研究法.

<社会活動>

- 1) TEA と質的探究学会第4回大会 実行委員
- 2) 日本心理学会 ポジティブ心理学研究会 広報担当
- 3) 日本糖尿病教育・看護学会、第30回日本糖尿病教育・看護学会学術集会協力委員

□看護科学学位プログラム博士後期課程3年 Munkhbaatar Bolorchimeg

□看護科学学位プログラム博士後期課程3年 椎葉奈子

<論文>

- 1) Nami Shiiba, Keiko Sugimoto, and Taiga Shibayama. (2026). Social Support and Depressive Symptoms Among Perinatal Migrant Mothers in Japan. Journal of Japan Academy of Midwifery, (in press).

<学会発表>

- 1) 椎葉奈子, 工藤理恵, 阿部吉樹, 柴山大賀. (2026). 在住歴10年のベトナム人女性の2つの文化を感じながらの子育て経験とう

つ症状：症例報告．第32回多文化間精神医学会学術総会．1月11日．（口頭発表）

<競争的資金>

- 1) 公益財団法人 生存科学研究所 2025年度助成研究 採択

<社会活動>

- 1) 多文化子育てコミュニティ にほんご で おしゃべり！

□看護科学学位プログラム博士後期課程3年 中田えいみ

<論文>

- 1) Nakada Eimi, Sugimoto Keiko, Fukuzawa Rieko K, Mayers Thomas, Chen Yi-Chuan, Shiao, Judith Shu-Chu. (2026). The roles of nurses employed as medical tourism facilitators in Taiwan:A qualitative study. International Journal of Healthcare Management. <https://doi.org/10.1080/20479700.2025.2604846>

□看護科学学位プログラム博士後期課程3年 Enkhbayar Munkhtuya

□看護科学学位プログラム博士後期課程3年 吉田多紀

<学会発表>

- 1) 宇津野早紀，大関美和子，吉田多紀，真柄和代，先天性聴覚障害・発達障害がある2型糖尿病患者の看護～行動変容に向けた関わり，第30回日本糖尿病教育・看護学会学術集会，2025年9月21日（茨城県つくば市）
- 2) 大橋由来，片原佳恵，宮崎淳子，吉田多紀，急性期病院における糖尿病治療支援定着に向けた「糖尿病連絡会」と病棟での取り組みについての報告と今後の展望，第30回日本糖尿病教育・看護学会学術集会，2025年9月21日（茨城県つくば市）
- 3) 町田景子，山崎優介，藤本悠，吉田多紀，太田美帆，大原裕子，金子佳世，菊永恭子，菊原伸子，グライナー智恵子，永淵美樹，

野間弘子, 村角直子, 村田中, 山本真矢, 瀬戸奈津子 下肢創傷処置および下肢創傷処置管理症新設後の看護師のフットケア実施状況の実態調査-糖尿病合併症管理料に焦点をあてて-, 第30回日本糖尿病教育・看護学会学術集会, 2025年9月20日21日, ポスター発表(茨城県つくば市)

- 4) 山崎優介, 町田景子, 藤本悠, 吉田多紀, 太田美帆, 大原裕子, 金子佳世, 菊永恭子, 菊原伸子, グライナー智恵子, 永淵美樹, 野間弘子, 村角直子, 村田中, 山本真矢, 瀬戸奈津, 下肢創傷処置および下肢創傷処置管理症新設後の看護師のフットケア実施状況の実態調査-下肢創傷処置/管理料に焦点をあてて-, 第30回日本糖尿病教育・看護学会学術集会, 2025年9月20日21日, ポスター発表(茨城県つくば市)

<論文・資料>

- 1) 藤本悠, 山崎優介, 町田景子, 吉田多紀, 安西慶三, 瀬戸奈津子 (2026), 下肢創傷処置管理料収載後の診療・指導・算定の実態と課題: 医師を対象とした全国調査, 日本フットケア・足病医学会誌 7(1): 89-99

<競争的資金>

- 1) 公益財団法人木村看護教育振興財団 2025年度看護研究助成, 2型糖尿病患者の経済毒性に関する実態調査と看護支援ガイドの検討-糖尿病看護の質向上を目指して-

<社会活動>

- 1) 日本看護協会看護研修学校糖尿病看護認定看護師教育課程 非常勤講師(科目名:糖尿病の治療法と生活調整・療養支援Ⅰ:セルフモニタリングと血糖パターンマネジメントの関係、科目名:血糖パターンマネジメント:血糖パターンマネジメントの概念、血糖パターンに影響する要因)
- 2) 日本糖尿病教育・看護学会 評議員

- 3) 日本糖尿病教育・看護学会 将来検討委員会委員
- 4) 日本糖尿病教育・看護学会 国際交流委員会委員
- 5) 日本フットケア・足病医学会 評議員
- 6) 日本フットケア・足病医学会 社会保険委員会委員
- 7) 日本糖尿病療養指導士認定機構 編集委員
- 8) 日本慢性疾患重症化予防学会 監事
- 9) 第30回日本糖尿病教育・看護学会学術集会企画委員
- 10) 第30回日本糖尿病教育・看護学会学術集会, 教育講演 知っておきたい経済毒性・時間毒性, 座長, つくば
- 11) 清水安子, 吉田多紀, 第30回日本糖尿病教育・看護学会学術集会, ミニレクチャー, セルフケア能力, 2025年9月20日21日

□看護科学学位プログラム博士後期課程2年 Damdinsuren Ishinkhorol

<学会発表>

- 1) ダミディンスレン イシインホロル, 心に残る私のストーリー: 糖尿病看護における実践経験の共有, 第30回日本糖尿病教育・看護学会学術集会ポスター発表 2025.09.20

<社会活動>

日本糖尿病教育・看護学会委員

□看護学科学位プログラム 博士後期課程1年 鳥海真希

<論文>

- 1) 渡部幸子, 藤森京子, 鳥海真希, 佐藤みつ子. (2025). 看護学生の主体的な健康管理マネジメントの育成～教育的視点からの検討～. *SBC 東京医療大学研究紀要*, 20, 2026年3月掲載予定.

<社会活動>

- 1) 世界メンタルヘルスデー in TSUKUBA: 「ストレスチェックをしよう」出展 (2025.10.12)

□看護科学学位プログラム 博士前期課程 2年 田澤彩乃

□看護科学学位プログラム 博士前期課程 2年 金佳延

□看護科学学位プログラム 博士前期課程 2年 三林里帆

<論文>

- 1) Mitsubayashi, R., & Sugaya, T. (2025). Insight Paradox in Patients With Schizophrenia: A Concept Analysis. *International journal of mental health nursing*, 34(6), e70164. <https://doi.org/10.1111/inm.70164>

<学会発表>

- 1) 菅谷瑛子, 金子美咲, 三林里帆, 菅谷智一, 神谷純子: 精神科経験年数・スティグマと暴力アセスメント自信度との関連-大学病院精神病棟看護師を対象とした調査. 第56回日本看護学会学術集会, 名古屋, 2025年9月.
- 2) 菅谷智一, 吉田夏波, 小林未歩, 三林里帆: 精神科看護師の特性とリカバリー支援能力. 第37回日本リハビリテーション連携科学学会, 横浜, 2026年3月.

<競争的資金>

- 1) 三林里帆. 2025年度笹川保健財団研究助成(2025-10)採択
「地域で生活する統合失調症患者の病気のアイデンティティの実態」

<社会活動>

- 1) つくば地区ピアグループ「Wellness 気がつくば」事務局
- 2) 世界メンタルヘルスデー in TSUKUBA:「ストレスチェックをしよう」出展(2025.10.12)

□看護科学学位プログラム 博士前期課程 2年 兪响玲

□看護学科学位プログラム 博士前期課程 1年 榎岳人

□看護学科学位プログラム 博士前期課程 1年 前田瞳

□看護学科学位プログラム 博士前期課程 1年 高嶋海瑠

F. 療養調整看護学研究グループ

■教授 落合良太

■准教授 目麻里子

■助教 秋山直美

■助教 増田有葉

□看護科学学位プログラム博士後期課程 3年 平栗智美

< 学術論文 >

- 1) 平栗智美, 目麻里子, 落合亮太. (2026). アシステッド腹膜透析患者支援において看護師が感じる困難と対処に関する質的研究 訪問看護師と病院看護師の比較から. 日本慢性看護学会誌. 20. doi: 10.34523/jscicn.202620002

< 学会発表 >

- 1) 平栗智美, 目麻里子, 落合亮太. (2025). アシステッド腹膜透析患者支援において看護師が感じる困難と対処に関する質的研究. 第19回日本慢性看護学会学術集会, 盛岡, 日本.
- 2) 石川武雅, 平栗智美, 井村春香, 田中貴大, 牛田多美, 中村大介, 内橋恵, 深田悠花, 関口亮子. (2025). 在宅腹膜透析療養者に対する訪問看護の実践内容と効果に関するスコーピングレビュー. 第31回日本腹膜透析医学会学術集会, 東京, 日本.
- 3) 目麻里子, 秋山直美, 平栗智美, 福井美月, 船越凧紗, 落合亮太. (2025). ゲーミングツールを用いた演習が学生の多様性と困難への寛容度に与える影響—前後比較研究—. 第45回日本看護科学学会学

術集会，新潟，日本。

□看護科学学位プログラム博士後期課程 3 年 古田敦子

< 学術論文 >

- 1) 古田敦子，阿部吉樹，柴山大賀，日高紀久江。(2025). 病棟看護師のアドバンス・ケア・プランニング(ACP)に対する役割認識に影響を与える要因. Palliative Care Research. 20(4). doi: 10.2512/jspm.20.233

< 学会発表 >

- 1) 古田敦子，阿部吉樹，柴山大賀，日高紀久江。(2025). 病棟看護師のアドバンス・ケア・プランニング(ACP)に対する役割認識に影響を与える要因. 日本緩和医療学会第 7 回関東・甲信越支部学術大会，千葉，日本。

< 競争的資金 >

- 1) 古田敦子. JST「次世代研究者挑戦的研究プログラム(SPRING)」採用. 筋萎縮性側索硬化症患者の視点から捉えたアドバンス・ケア・プランニング: グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いた質的分析

< 社会活動 >

- 1) 古田敦子. 日本 ALS 協会茨城支部運営委員
- 2) 古田敦子. 日本 ALS 協会茨城県支部 令和 7 年度呼吸器リハビリテーション研修会運営委員
- 3) 古田敦子. 日本 ALS 協会群馬県支部「お出かけ LIVE」ボランティア
- 4) 古田敦子. 日本 ALS 協会東京都支部患者・家族交流会ボランティア

□看護科学学位プログラム博士前期課程 2 年 樺山茜

□看護科学学位プログラム博士前期課程 2 年 湊谷亮介

□看護科学学位プログラム博士前期課程 1 年 船越凧紗

< 学会発表 >

- 1) 目麻里子，秋山直美，平栗智美，福井美月，船越凧紗，落合亮太。

(2025). ゲーミングツールを用いた演習が学生の多様性と困難への寛容度に与える影響—前後比較研究—. 第 45 回日本看護科学学会学術集会, 新潟, 日本.

□看護科学学位プログラム博士前期課程 1 年 福井美月

<学会発表>

1) 目麻里子, 秋山直美, 平栗智美, 福井美月, 船越凧紗, 落合亮太.

(2025). ゲーミングツールを用いた演習が学生の多様性と困難への寛容度に与える影響—前後比較研究—. 第 45 回日本看護科学学会学術集会, 新潟, 日本.

IV. 大学院生支援

1. 学生数の状況

1) 入学者および修了者数(再入学生を含める)

	入学者数	修了者数	
		春学期	秋学期
博士前期	12名	0名	11名
博士後期	3名	0名	4名

2) 在籍学生数、うち休学者数 2026年3月末現在

	在校生数	休学者数
博士前期課程1年	12名	1名
2年	13名	0名
博士後期課程1年	3名	1名
2年	3名	0名
3年	21名	9名
その他 研究生	1名	0名
退学者	1名	0名

2. 大学院生支援委員会の活動

1) 新入生オリエンテーションの実施

2025年4月8日(火)10時00分より臨床講堂Cにおいて対面で実施した。

2) 研究成果発表のための国内外学会等への参加に伴う旅費支援に関する審議

2025年12月19日〆切にて募集を行い、6名から6件の申請があった。

2026年1月14日の教育会議にて審議した。

規程を改定し、宿泊費の上限額の設定(学内旅費規程第29条に拠る)、オ

ンライン参加費の除外等を追加した。

3) 看護科学学位プログラムにおける「学生支援対応チーム」^{注1)}としての活動

- a. 学業継続、生活支援のための相談：随時（できるだけ複数人体制での対応を心がけた）
- b. 休学および復学志望者への面接・相談：随時（大学院生支援委員長）
- c. その他

4) その他の活動

- a. TA、TF、RA の時間配分
- b. 人間総合科学学術院長賞、看護科学学位プログラム長賞候補者の推薦順位付け
2026年1月時の看護科学学位プログラム教育会議において、「看護科学学位プログラムの賞の申し合わせ」に則り、受賞候補者として指導教員より推薦された前期課程修了予定者3名、後期課程修了者3名から、人間総合科学学術院長賞候補として前期、後期各1名、また、看護科学学位プログラム長賞として前期、後期各1名を選出し、会議出席者より同意を得た。
- c. 各種受賞候補者（学長賞、茗溪会賞、校友会賞等）の募集と順位付け
- d. キャリア支援担当委員会委員として就職に関する情報の配信
- e. ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリア委員^{注2)}（大学院生支援委員長）としての活動

注1)「学生支援対応チーム」の役割（学生支援・自殺対策WG報告書（2011.5）から抜粋）《キーワードは、つながる、つなげる、つながりあう》

(1)保健管理センターなど各支援組織との連携の窓口になる。

(2)クラス担任や指導教員へのサポートを行う。

(3)所属する学生の不適応状況の把握と教育組織としての対応を行う。

注2)平成28年4月より「障害者差別解消法」の施行を受けて、大学全体として障害者等に対する合理的配慮が必要となった。これを受けて、ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンターが開設され、大学院生支援委員長が担当委員となっている。

3. 今後の課題

本学では、平成23年度より、学生に対して直接指導を行う指導教員等を支援するとともに、各教育組織において学生対応に関する対策を検討するため、各学群・専門学群および各学位プログラム単位に「学生支援対応チーム」を設置している。看護科学学位プログラムにおいては、看護科学学位プログラムリーダーおよび大学院生支援委員により当該チームが構成されている。

今後は、これまでの活動を維持しつつ、大学院生が学業および研究を円滑に遂行できるよう、学生生活全般に関わる支援体制を、チームとしてより一層強化していく必要がある。具体的には、学生支援対応チームから大学院生への一斉メール配信を活用して必要な情報を適時提供するとともに、大学院生支援委員相互の情報共有・情報交換を一層活発化させることが求められる。また個別事例への対応については、委員が単独で対応することをできる限り避け、複数の教員によるチーム対応を基本方針として改めて確認する必要がある。

さらに異なる文化的背景を有し、日本語によるコミュニケーションが十分ではない留学生の増加も見込まれることから、そのような学生に対してどのような支援体制を構築していくかについて、継続的に議論を深めていく必要がある。

このほか、次年度においても、TA・TF・RAの業務時間配分が大学院生の学業遂行の妨げとならないよう、引き続き指導教員と連携しながら調整を行うこと、また、点数化により客観化された選考基準に基づき、看護科学学位プログラムリーダー長賞および人間総合科学学術院長賞の選考を継続して実施することが必要である。

大学院生支援委員会としては、今後も、大学院生が学業や人間関係等に関する悩みを抱えながらも相談をためらい、孤立に陥ることを予防するため、できる限り迅速かつ適切な支援を継続して実施していく方針である。

V. 社会貢献と国際交流

国際交流

2025年度は対面での国際交流がさらに促進された年となったが、大学院生や教員だけでなく、学類生のレベルでも活発な国際交流がみられた。イリノイ大学シカゴ校国際看護研修(7月に約1か月)には2名の看護学類生が参加した。

海外からの研究者の受け入れや意見交換、オンラインセミナーの開催や共同研究の進展が見られたのは、台湾、ガーナが主であった。次年度は、これらのパートナー国との交流を継続・強化していきつつ、新たなパートナー国との交流の可能性も模索しながら、教育・研究の国際交流を拡大していきたい。